

認知症初期集中支援チームにおける効果的な活動に関する調査研究事業

目的

認知症初期集中支援チームは、認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族への初期の支援を包括的・集中的に行い、地域包括支援センターやかかりつけ医等の地域の関係者と連携を図りながら、自立生活のサポートを行う役割を担っている。それら先進的事例の横展開を図り、早期診断・早期対応に向けた体制づくりの推進を図ることは、適切な医療・介護サービス等に速やかにつなぐ取組の強化に資することが期待される。一方で、同チームは、市町村の設置方針や設置場所・機関の特性等の活動環境によって、支援対象者や具体的な活動内容に違いが認められ、市町村において担う役割や機能が異なっている。今後、同チームの更なる機能発揮、チーム活動の充実に向けては、それらの特徴的な差異に応じて適切に設置・運用されることがポイントとなる。

本年度は、上記を踏まえ、チームの設置場所・機関に着目した調査等を行い、それらの特徴を明らかにし、それぞれの機能の強みを活かしたチーム活動の実施に資するデータや事例の収集を行うことを目的とした。

事業概要

事業目的に従い、①市町村および認知症初期集中支援チームに対してチーム活動実態に関するアンケートを実施した。また、②令和元年度の前身事業において実施したチーム活動の評価指標にかかる調査データについて、チームの設置場所・機関に着目した追加分析を行った。また、これまで継続的に整理してきた③「活動実績報告用プログラム」を用いた、チーム活動実績のデータ集積・分析を行った。

1. 設置場所別アンケート調査：市町村調査票 754 票（回収率 43.3%）

チーム調査票 1,167 チームから調査票を回収

2. 実績報告用プログラムによるチーム活動実績：312 チームからデータの提供があった。

集計は、下記の条件によって支援対象者ごとのデータの絞り込みを行い 1,492 人のデータ（うち、支援終了に至っている対象者は 580 人）を得た。

事業結果

●チームが地域包括支援センターに置かれるのか、医療機関に置かれるのかは人的な要因が強い。その地域にどのような人材がいるかによって、どのようなチームが作られるか、自ずから決まってくるように思われる。

●『地域包括支援センターに設置されているチーム』は、行政・地域包括支援センターとの連携がスムーズで（情報が早く入る等）、介護サービスによる生活支援のニーズが高い対象者に、早期かつ効果的に介入している。地域包括支援センターの総合相談との親和性が高く、支援チームの支援が必要な対象者に関する情報を早期に把握できるとともに、地域包括支援センターとの連携の上、介護サービス等福祉的な支援ニーズの高い対象者への支援について有効に活動できる。早期発見・スクリーニング、経過観察（見守り支援）、日常生活の支援が多く、全体的にバランスの良い対応をしている。

●『医療機関に設置されているチーム』は、認知症の鑑別診断、対応困難事例など、医療的支援のニーズが高い対象者に効果的に介入している。チームの所属する医療機関等との連携により、身体合併症症状増悪等の医療的ニーズへの対応がスムーズにいく。結果的に困難事例対応の比率が高くなっている。

考察

今回の調査結果からは設置場所でのチームの特徴が明らかになった。市町村は地域の有するチームの特性を勘案し、地域包括支援センターや地域の医療機関との役割分担、人材の配置等地域の実情を踏まえ、チームの効果的な配置について検討していくことが望ましい。自治体として認知症初期集中支援 チームを有効に活用するためのポイントをまとめた。

- ①対象者の早期の把握の仕組みづくり
- ②チームと関係機関の役割分担の明確化
- ③チームによる適切なアセスメント（支援の方針決定）
- ④迅速な医療・介護サービス等の社会資源への引継ぎに向けた関係づくり
- ⑤引継ぎ後のモニタリング及びチーム活動の改善・見直しの継続的な検討